

---

# ドラえもん のび太のバイオハザード OVERKILL Ver1.5

sHid

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ドラえもん のび太のバイオハザード OVERKILL Ver 1.5

### 【Nコード】

N0791BA

### 【作者名】

SHid

### 【あらすじ】

ドラえもん・のび太のバイオハザードOVERKILLの正式な続編的外伝小説です。

ゾンビや化け物でまみれたススキ原でドラえもんとのび太、そして仲間達は武器を持ち、街からの脱出を図るが…

## 結局は二の舞（前書き）

また、書いてしまいましたw

ドラえもん のび太のバイオハザードOVERKILLの続編的外  
伝な話です

結構、内容が変わっています

## 結局は二の舞

ススキケ原、とある夏にて

晴れた日の夜中

色々あって何が何だかわからない…ママがいきなり襲ってきたのだ  
遅れたな、僕は野比のび太。年は設定自体未定なので非公開という  
ことで…

朝、起きて台所へ向かうと、皮膚がただれ変色したママがパパを食い散らかしていたのだ

そして、ママは今度は僕に襲いかかってきた！瞬時に隣に居たロケット、ドラえもんが金属バットで殴り、ママは脳漿をまき散らして倒れた。人間じゃない、何かがちぎやう……じゃない、違う

のび太（以降、のび）「ドラえもん、これは一体？」

ドラえもん（以降、ドラ「わからん、だが、夢ではないという事は確かだね。」

洋画の映画やゲームで見たことがあるような光景……ゾンビ……連想してみると引かかる

のび「一体、なんでこんな事に…何があったんだろう。」

のび太は落ちて着いて過程を思い出す

ドラ「あああああああああああああああああああああ  
ああああ!!！」

ドラえもんがいきなり大声を上げる

のび「びっくりした!どうしたんだ!いきなり!」

ドラえもんは真っ青の体でさらに真っ青になる

ドラ「思い出した……思い出したありのままのことを話すぞ。」

ドラえものの口から驚愕の真実が発表される

[illegible]

え！！！？マジで！？」

昨日のことである、いつものようにジャイアンに虐められ、スネオにのけもの扱いされ、しずちゃんにそれを見られてて鼻で笑われ、散々だった学校から帰ってきたところである

ドラえもんに泣きつこうとした矢先、ドラえもんがゲリラのようなかつこをしてAK-47を持って遊んでいたのだった

ドラ「革命だ！革命だあ！」

のび太はだめだこりゃ、と思いながら叫んでいるドラえもんを一本背負いをして止めさせた

のび「お前何やってんだ？」

ドラ「いててて…ああ、のび太か、どうしたんだ？」

のび「ああ、そうだ！またジャイアンたちにいじめられたんだよ。」

ドラ「まったく、何をやっているんだ！僕はな、君を立派な人にするためにここにやってきたんだぞ、大体、君は…」

ペラペラペラペラ、ドラえもんの長話が始まる

そして、いきなりAK-47をのび太に渡す

ドラ「革命するんだよ。」

のび「いやいやいやいや、殺しはダメだろ、常識的に考えて。」

のび太はAKのグリップでドラえもんの頭を軽くたたく

のび「それより、アイツラを懲らしめる道具ないか？」

ドラ「しかたがないな」

ドラえもんは何かバルサンみたいなものを取り出した

のび太がすかさず止める

のび「ちよつと待て！それBウイルスじゃないだろうな！？」

ドラ「え？違うけど…何、Bウイルスって？」

のび「ああ…違うならいいんだけど…二の舞はごめんだっぜ。」

ドラ「…？」

詳しくは前作である「OVERKILL」を参照

といっても、特に繋がっていない外伝的な話だけ…

ドラ「これはな、世界を面白くするための物だ。」

のび「へえ…まさか、せかいがおもしろくなるじゃないよね。」

ドラえもんはのび太の言葉を聞くまでも無く、一気に焚く

ドラ「御名答。これは焚くと世界が面白くなるんだ。」

のび「何イイ〜〜〜！それ本物か！？」

ドラ「ああ…って、あああああああああ！！！」

のび「ど…どうした？」

ドラ「間違えて、Tウイルスばら撒いちゃったよ！」

のび「Tウイルス？Bウイルスじゃなくて？」

ドラ「よくわかんないけど、アンブレラからの預かりものさ、てか、何？Bウイルスって？」

のび「あ…それはこっちの話…で、ナニソレ？」

ドラ「…？まあ、詳しくは知らないんだけど、人類の進化がどうのここの…」

のび「ちよつとま…それやばくね？」

ドラ「大丈夫大丈夫、それは販売文句。多分、足が悪い人の為のものだってサ。」

のび「ほえ〜じゃあ、大丈夫だな。よかったあ〜前作の二の舞にならなくて。」

ドラ「ねえ…さっきから何の話？」

そして、それ生者・死者問わず、ゾンビや化け物に変えてしまうもののだとは知らずにいた

のび「何じゃそりゃあああああああああああ！二の舞じゃないか！前作の！」

ドラ「…」

のび太が慌てふためく中、ドラえもんはずっと黙っていた

ドラ「まあまあ、年も明けた事だし。作者の嫌いな金正日死んだし。池田大作は死にかけていることだし。そう、くよくよするな。」

のび「何言ってるんだバカ。状況を考えろや、殺されかけたんだぞ、しかも二の舞じゃん。これ、ルキアさんとかマユミさんとか登場するんじゃないのかこれ。」

ドラ「甘えるなー！」

ドラえもんはのび太を殴る

のび「何すんだよ！」

ドラ「誰かに助けてもらうんじゃないやねえ！自分のケツは自分で拭け！」  
のび「いや！あんたのせいだろ！」

のび太はドラえもんに飛び蹴りをかます

ドラ「いてえ！」

ドラえもんは倒れる

のび「まったく！…ん？」

ドッガーーーーーー！ン！二階から凄まじい爆発音が聞こえた

## 結局は二の舞（後書き）

OVERKILLを読み返してみました

…なんか…もうね…すごかったですwww【悪い意味で】

THE LOST AND DAMNEDと一緒に書いていくので  
こっちは少し遅いかもかもしれません



## お互い様（前書き）

そろそろ、登場人物紹介でも書いて行こうかと…

## お互い様

二階から爆音が聞こえる

のび「何だ今の？何かが爆発したのか？」

のび太が二階へ向かう

どうやら、爆発があつたのはのび太の部屋のようだが…？

のび太は自分の部屋を調べる

のび「何だ…特に何も灰になってないじゃん…何じやいな今の…」

すると、ドラえもんがやってきた、少し伸びをして畳に寝転がり、

スマートフォンを開く

ドラ「はいもしもし」

のび「スマホオカヨウwwwびつくりしたわ、ホントマジで。」

のび太はため息をつくとき、ドラえもんとともに畳に座る

…よく見るとのび太の机にアタッシユケースが置いてあつた

ドラ「アンブレラからの伝言だ。」

ドラえもんがのび太に言う

のび「アンブレラ？ああ、あの大薬品企業じゃん、なんでそこから連絡が来るんだお？」

ドラ「それはやる夫な。ちょっと待て、スピーカー用意する。」

のび太が急いでドラえもんのスマートフォンにスピーカーをセットする

のび「よし、いいぞ！」

ドラ「繋がりましたあ…！！！！！」

ドラえもんの大声が響く

社員『あ！の！も！し！も！し！も！し！』

アンブレラ社員の声を大音量で響く

のび「うわぁ！耳が死ぬ！」

ドラ「うるさすぎるぞ！音量下げろ！」

のび太は急いで下げる

のび【昨日、ブルーハーツとか尾崎豊の曲を大音量で聴いてたんだっ…】

気を取り直して、テイク2

ドラ『すいません！借金はあしたに返します！893は連れてこないで！』

のび太がパシッ！とドラえもんの頭を叩く

ドラ『いて！』

社員『あのう…ふざけてます？』

行くよ！真剣に！テイク3！！！！

ドラ『あ、すいません、セールスはお断りです、いや、マジで。』

社員『あ…あの…私の話…ちゃんと聞いてますか？』

どうやら声は女の人のようだった

ドラ『君きやわい…ね…！！』

カットカット！！！！

のび【バカ！真剣にやれよ！アンブレラの人困ってんだろ！】

ドラ『すいませんでしたすいま。』

ドラえもんは棒読みでスタッフたちに言い放つ

のび【ちゃんとやれバカ！頭おかしくなったのか？】

ドラ【かしこかしこまりましたかしこ。】

はい、本番！

ドラ『もしもし？アンブレラの方ですか？』

社員『ああ…ハイ。ドラえもんさんですよね。』

ドラ『おう、何の用や？』

社員『なるほど…ええ』と…アンウレアの大切な「ウウィルス」ばら撒いたのあなたですよね？』

ドラ『はい？』

社員はカツゼツダメダメで話してきた

ドラ『あ、Tウイルスですか？そうっすけど…それがどないしたと？』

社員「ハイ、あにやた、たいひえんなことしてくひえましたね。」

ドラえもんは笑いをこらえるの必死だった

のび【ああ！もう！かわいい！】

ドラ「ク…ク…って！？大変なこと！？どういうことっすかそれ！？」

笑い話ではない！どうやらヤバイことになったようだ

ドラえもとのび太は顔を合わせる

社員「ところでですね、ま……まてい……街の中にゾンビや化け物があわられたので証拠を消すためにきやく兵器を今からハツひやしします。」

ドラ「か！核兵器！何だと！」

社員「でもですね、今から核で吹き飛ばすのは容易いことなんです  
がそれでは面白くないので、3日間の猶予を与えます。」

のび太は時刻表を見る、今は8月17日だから、20日の12時丁度か！？

社員「後、多分、とよもだちとかも生きてると思い魔手からてきとーに合流してくだしい。あっそれから、

今から武器配りますね、街中にも斧とかバットとかを置きましたので使ってください。もちろんゾンビだけでは面白くないので中ボスの存在やラスボスの存在が何匹かいます。じゃあ、後はがんばりゃあってください。」

プツッ！電話が切れた

ドラ「なんじゃそりゃ ああああ ああああ ああああ ああああ  
ああああ ああああ ああああ」

のび「ってか、最後までかみかみだったな…社員の人。」

ドラ「ああ、結構可愛かったな…って、うんなことはどうでもいいやい！」

のび「そうだ、ドラえもん！秘密道具は？」

のび太はドラえもんのお腹を見る、アレ？ない。

ドラ「ああ、今、ぶっ壊れて修理中。」

のび「ぎゃふん！」

ドラえもんは空に向けて指をさす

ドラ「空は美しい、今日はすごくいい天気で、今日はばっちりだな。」

のび「いやいやいや、全然バツチリじゃないから。」

のび太はアタツシユケースを畳に降ろし、ドラえもんの前で開ける

パカッ

中にはペネッタM92F2丁と弾薬、そして救急スプレー一本が入ってあった

ドラ「おお！ペネッタだ！」

のび太はペネッタをとり、ドラえもんにも投げ渡す

のび「ん？それにしても昨日持ってたAKは？」

ドラ「ああ、故障して使い物にならなくなった。」

のび「ダメダメじゃん。」

のび太はがつくししながらリロードをする

ドラ「まあそう、くよくよするな、作者が龍が如くOF THE  
ENDを中古で買った事だし。」

のび「どうでもいいんだよね。」

ドラ「お金がないんだよねwww」

最近金欠ぎみです…作者に100億円だけ…くださいっ！

外から呻き声が聞こえる、ドラえもんのび太は外を見る

ドラ「やべえ…どんどん集まってきやがった。」

のび「どうするか？強行突破するしかないか？」

ドラ「う…ん…」

ガシャン！一階の玄関ドアが破壊される音が聞こえた

ウウウウウ…

アアア…

のび「Oh！Fuck！」

ドラ「仕方ねえ！2階から降りて脱出だ！」

ドラえもんが「先に行くぜ」といって華麗に2階から外へ飛び降りた  
さらに、ペネッタで周りに居たゾンビ達に向けて撃つ

ドラ「さあ、捕まえるから来い！」

のび「くそ…どうなつても知らんぞ！とう！」

ゾンビ達のがび太たちの部屋に入ってきた！

のび太が飛び降りる、ドラえもんがナイスキャッチする

のび「Thank you！助かったぜ。」

ドラ「近づいてきやがったらケツを蹴り飛ばしてやれ。」

のび「了解だつぜ。」

のび太とドラえもんは近くに居るゾンビ達を片づける

頭が弱点のようで、頭を撃つと、頭が吹き飛んだ

のび「これからどうする？」

ドラ「とにかく、学校へ向かうしかないか…こつちだ。」

ドラえもんのび太は学校へ向かう

## お互い様（後書き）

龍が如く OF THE ENDは面白いんですがロードがクソ長  
い…

現実なんだから豚バコ行きは当たり前（前書き）

進展なしの回ですw

ひさしぶりにジャイアンとスネオが登場！！



## 現実なんだから豚バコ行きは当たり前

スネ夫（以降スネ「ジャイアンよ、これは一体どうなっているんだ？」

ここはよくアニメに出てくる空き地である、ほら、土管が三つ積まれているあそこ

ジャイアン（以下ジャイ「わからん…が、危うく死ぬところだったぜ、ふう。」

ジャイアンとスネオはスネオ宅で手に入れた銃を持って遊んでいたが、いきなりゾンビに襲われたのである

なんとか、銃の説明書を見ながらチマチマ撃っていたが、どんどん数が増えたので逃げるしかなかった。ちなみに、スネオママはスネオによって銃と一緒に入ってたナイフで眉間を突き刺されて死亡した

アタツシケースの中には「ニューナンプリボルバー」と「グロック17ハンドガン」が入っており、ナイフ一本、鉄パイプ一本が入ってあった

ニューナンプは反動が少なくめちゃくちや軽いので撃ちやすい、グロック17は若干軽い上に連射が利くので余裕だった、的を狙うように撃てば一気にサバゲー気分だ

しかし、ゾンビの数が多すぎる…ススキケ原の住民が相手だから仕方がないが…

スネ「くそ！弾がもうなくなってきた！」

スネオが持つのはニューナンプである、何振り構わず撃ちまくるのですぐ弾がなくなっていくのだ

ジャイ「もっと大事に使えよ。ほれ、これを使え！」

ジャイアンはスネオに少し弾薬を投げ渡す

スネ「スマン！恩に着る。」



スネ「この通り！堪忍してや兄ちゃん。このままやと警察につかま  
んねん。」

ジャイ「何言ってんだお前は…」

ピーポーピーポー！！

いきなり、サイレンを鳴らしながらパトカーがやってきた！  
ってか、人居たのかよ。オイ

ジャイ「何じやいなアレ!?」

パトカーから警官が数名出てきた

警官「動くな！警察だ！」

ジャイ「はっ？ちよつとタンマ…ちよ…」

警官たちはジャイアンとスネオに手錠を掛ける

スネ「だから言ったのに…」

警官「銃刀法違反で逮捕する。」

ジャイ「ちょwwwオマエwww」

ジャイアンは突然の出来事に笑い転げる…手錠がかかっているから  
転げる事はできなかったが…

スネ「今さらじたばたしねえよ。」

ジャイ「何言ってんのお前wwwってか、何で警官がwww」

ジャイアンとスネオはパトカーに乘せられてそのまま連行される

まあ、現実ではこうなるよなあ

いや、普通にはないか

ドラ「It's a paradise!」

ドラえもんはそう叫んだ

のび「何を言ってるんだあんたは…」

ドラ「現実じゃあ銃持ってたなら銃刀法違反で警官に捕まるだろうが  
いな。」

のび「知るか、状況をわきまえる状況を。」

ドラ「だね。」

ドラえもんとのび太は大量のゾンビに囲まれているところであった

現実なんだから豚バコ行きは当たり前（後書き）

静香たちもどんどん登場しますよー

ジャイアンとスネオは警察に捕まったので当分登場しません

ドラえものの頭は最強だっぜ！（前書き）

TV画面の向こう側　かつこつけた大人たちが　子供達を　虐待し  
た

替え歌なら絶対、問題はない

進展はありますwww

静香登場！ですが…

ドラえもんの頭は最強だっぜ！

のび「どうすればよござんすか？」

ドラ「うーん、ちよっぴりピンチ。」

のび太とドラえもんは大量のゾンビに囲まれているようだ

のび「ペネッタちよつと撃ったくらいじゃ減らねえべな、数が。」

ドラ「そうみたいだな。」

ドンドン！一応数発は撃っているがなかなか数が減らない。まあ、ヘッドショットしまくっているんだが：

これまでも、顔面にケリ入れたり、路上におちてあったものでブン殴ったり、時々大声出して助けを呼ぼうとしたけどすぐに咳き込んでダメになる

ドラえもんは余裕をかましてブルーハーツの青空を聞いているが、趣旨と違う、アレは差別反対の歌だ、革命ではなかるう。ってか、何でのんびり歌なんか聞いてんだ

のび「ヤバイ！死ぬ！」

ドラ「おいのび太！あのドラム缶を狙うぞ！」

ドラえもんはゾンビの周りに置かれているドラム缶を指差す

のび「おお！なるほど！Good idea！」

ドラ「ヒートスナイプで行くぞ！」

のび太とドラえもんはドラム缶に狙いを定める

のび「いっせーのーで！」

ドラ「オラア！」

のび太とドラえもんは一気に撃つ

ガキン！しかし、当たったのは当たったのだが爆発しない。どういうことだ、映画とかゲームでは爆発するのに…

のび「アレ！？上手くないいな！」

ドラ「しまった！ヒートケージが満タンじゃないんだっ！」

のび「それは完全に龍が如くOTEな。」

どうやらヒートケージがたまっていないようだ、非常にマズイ  
そこへ救世主が現れた！

のび「アレは何だあれ！？」

ドガドガドガ！パトカーがゾンビの群れに突っ込み、なぎ倒しながら去って行った

というか、ジャイアンとスネオの姿も見えた、何でやねん

ドラ「おお！助かったか！」

のび「ってか、ジャイアンとスネオがいたぞ。」

ドラ「どうでもいいじゃん、んなの。」

ドラえもんは指をさす

ドラ「さあ、先に進もう。こつちだ。」

のび「やれやれ、どうなってるんだか…」

ドラえもんとのび太は再び歩き出す

ドラ「ちよつとストップ！」

ドラえもんがのび太を制止する

のび「どつた！？」

ドラ「ちよつとトイレ！」

のび太はズッコケる。何でロボットがトイレなんだ！

ドラ「もうダメなんだ、あ、漏れる。」

のび「それはバイオ4の空耳な。ってか、ロボットがトイレってオ  
まwww」

ドラえもんはのび太に自分のペネッタを渡し、足早にトイレへ駆け  
込んでいく

のび「二丁拳銃にしろってことかな…阿部さんに気をつけろよー」

ドラ「ふうゝ間にあつた。」

ドラえもんは一気に洋式便所に駆け込む

ゾンビ「！」

ドラ「うおー！ゾンビだ！」



ゾンビが先に座っていた！しかし、ドラえもんは経った今銃をのび太に渡したばかりである

ドラ「くそ！」

ドラえもんはゾンビに蹴りをいれる

だが、ゾンビがよろけるだけで対して効いていないようだ

ドラ「やば！どうしょ！」

ドラえもんは慌てふためく！

のび「しかし、二丁拳銃つても龍が如くO T Eの秋山みたいでかっこいいな。」

のび太は二丁拳銃でかっこつけていた。ドラえもんのこととは知らず仕舞いである

そこへ…

パシュ！

いきなり、R P G - 7の弾が飛んでくる！！！！

のび「うおお！あぶねえ！」

のび太はかろうじてよけるが、奥にあるドラえもんが入っている公衆トイレにロケット砲が当たる

のび「O h ! m y ! S h i t ! ドラえもん！」

公衆トイレは粉々に吹き飛んだ

のび太はとっさに射撃手に向けてペネッタを一発撃つ！

一瞬の断末魔の後、バタツ！と倒れる人影一つ…

のび「…しずちゃんじゃん…」

のび太は深く見る…源静香であった。なんでこいつがR P G - 7持ってたんだ

まだ、息があるようだ

のび「死ねバカ。狙う奴が違うんだよ、このクソ女。」

のび太は倒れて苦しんでいる静香の腹をける

のび「ううゝドラえもん。」

のび太は悲しむ

ドラ「おおーい、のび太。」

ドラえもんが平気なツラして登場した！

のび「うおおおおおおおおおおおおおお！……ドラえもん！無事だったのか！」

ドラえもんは静香を見ると、のび太と同じく腹をけった

ドラ「まあーねーでも、ちょっとゾンビいてビビったけど……」

のび「でもなんで無事だったんだ？」

ドラえもんは頭を手でさする

ドラ「この頭があればRPG-7だろうがテポドンだろうがどんなこいやあー！」

のび「なるほどな……その手があったか。」

ドラ「ん？」

のび太はドラえもんの足を持ちドラえもんを持ち上げる

ドラ「おい、のび太……なんだこれは……」

のび「すまん、ドラえもん。」

ゾンビ達が集まってきた！

のび「ジャイアントスイングだ！オラア！」

ドラ「うわああああああああああああああああああああああああああああああ……」

ドラえもんの頭でゾンビ達は木っ端みじんになっていく！

のび「よっしゃあ！」

ドラ「無茶すんじゃねえよ！死んじやうだろ！」

のび「何言っただバカ。お前RPGも効かない頭持ってたんなら大丈夫だろう。」

ドラ「あつ、そうか。」

ドラえもんは納得するように、ウンウンと頷く

のび「これ使え。」

のび太はドラえもんに救急スプレーを投げ渡す

ドラ「センキューベリマッティ。」

ドラ「お！あそこにアタツシユケースが！」

ドラえもんがアタツシユケースを見つける！

開けてみるとサブマシンガン【マツク１１・サイレンサー付き】が入ってあった

サブマシンガンの弾もちゃんと１００発ほど入ってある

ドラ「やったぜ。」

ドラえもんがマツク１１を取りかつこよく構える

のび「ドラえもん…ちよつとやべえ…」

ドラ「なんや？」

のび「あれを見る…デカイ男がゾンビを引き連れてるぜ！」

ドラ「それ…去年やった…オレ…ビビって逃げたけど。」

のび「冗談はここまでにしようぜ…マジやばそーだ。」

目の前にはでかいゾンビではない…でかい筋肉ムキムキの大男だが、明らかに異常な肌の色をしている…そして、ゾンビを連れて  
いる…非常にヤバイ

ドラえもんのび太は銃を構える！

ドラえものの頭は最強だっぜ！（後書き）

色々疲れて更新できませんでした。すいません。  
次はロスト・アンド・ダムド更新しますね

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0791ba/>

---

ドラえもん のび太のバイオハザード OVERKILL Ver1.5

2012年1月14日22時50分発行